

「東亜同文書院大学と愛知大学」

読者のみなさまから寄せられた 熱いメッセージ・第4編

(同文書院記念報第3号につづく)

●愛知県小牧市 会社員O氏(60才)

第1集から愛読しています。東亜同文書院大学と愛知大学との結びつきがよく判ります。愛知大学が中国の大学と交流し、中国問題に力を入れているのは強い意義があります。

●長野県塩尻市 会社員Y氏(57才)

第1集・第2集と同じように内容が充実しており愛読する度に充実感を味わう事が出来ます。旧制高等学校資料館が松本にありますので、それと比較しています。同文書院も同じと思います。4集・5集続けて下さるよう御願いたします。

●奈良県高市郡 元教員M氏(72才)

東亜同文書院大学の歩みについて、時代と年齢を越えて、執筆者の文章が読者に感動を与えてくれます。島国日本の隣りに12億の民の活動する中国大陸があることを忘れてはなりません。そのいみで、先づ言葉を知ることでしょう。上海にあった同文書院の伝統を愛大がうけついでいきつづけて下さるためにも引き続き、続刊を希望します。

●埼玉県北葛飾郡 社会保険労務士Y氏(60才)

昭和10年頃、産業組合中央会に入会し調査部所属で上司より「東亜同文書院」の話聞き、非常時関心がありました。中日戦にかり出されて、主に山西省でした。終戦後東海大学の一部にかと思っていましたがこの本を見てホットしていま

す。その上、陸軍予備士官学校の跡地ということもあって。

●京都府長岡京市 T氏(60才)

敗戦までを旧満州奉天で育ち小学校5年まで奉天省立在滿加茂国民学校でした。私故郷だと思っております。後日詳細なお手紙を差し上げます。

●滋賀県犬上郡 会社員N氏(38才)

非常に示唆に富んだ書物であると思う。これからもこのシリーズを続けてほしい。

●大阪府堺市 大学生H氏(26才)

友人が東亜同文書院について研究しており、強制的に、この冊子を手渡された。

私自身、全く書院について知らなかったため、この冊子を読んで、戦前にこんな素晴らしい大学があったなんて信じられなかった。読み終わってから、少しは友人のことを理解したと共に、改めて日中の歴史を考えさせられた。

●千葉市花見川区 教員F氏(70才)

毛井正勝さまの本間喜一論に感銘を受けました。此の先生の「致中和」の揮毫文字にも興味しさを覚えました。

●福井市 高校生Tさん(17才)

愛大の長い歴史がよくわかった。戦争という暗い時代の片隅で、日中の学生たちが友好のために尽くしたのはすごいと思う。こんにちの日中関係の基礎を築き上げたといっても過言ではないだろう。

●愛知県小牧市 会社員O氏(61才)

第1集から購読しているが、東亜同文書院の実態と功績をよく承知し、愛知大学との関係について理解を深めることができた。

●愛知県岩倉市 高校教員K氏(60才)

第1集から4集まで、卒業生(愛大)ということもあって、多大な関心を持って読ませてもらっています。S29年の入学なので、20年代のことなども知りたいと思います。

●横浜市青葉区 T氏(75才)

第4集完結編を読み、母校に対する誇りと愛知大学に対する親愛の念が益々強くなるのを禁じ得ません。この上は子孫に残す宝とし、来る21世紀がアジアの時代となる原流の証として全4集の合本版の発行を提唱するものであります。写真・資料の追加は勿論のこと追加加筆も歓迎し立派な学問的遺産とされることを望みます。費用の面から限定版としての発行を考えられましょう。

●神戸市垂水区 担保代理業O氏(70才)

東亜同文書院大学予科45期、創立時の愛大予科学部旧制3期の小生としては感無量。鈴木康雄君(執筆者)は西部小学校、上海日本中学校と小生の後輩に当り、よく知っており、書院入学後は予科と専門部と別れましたが愛大で又一緒になり、奇縁と思つてます。鈴木沢郎教授も直接

教えていただき懐かしい思いで一杯です。

●名古屋市長 団体職員K氏(61才)

次集を楽しみにしております。

●名古屋市長 区N氏(77才)

同文書院卒業者に健在のうちに引き続き続報をお願いしたい。

●愛知県小牧市 日本語教師H氏(69才)

今回で完結とか。先ずは御礼申し上げます。書院最後の入学生(46期)。父は21期です。栄養失調と結核で愛大退学後、10年近くたって再訪した豊橋は全く見知らぬ町になっていた。予科寮の裏門で呆然としていた私に「ベント(木多さん)と声をかけてくれたのは、うどん屋の親爺だった。ほろほろの引揚学生を豊橋市民はほんとうに可愛がって下さった。ここに改めて豊橋市に御礼申し上げます。

●愛知県南設楽郡 社会保険労務士S氏(64才)

1〜4集まで、我が母校の愛大と同文書院のつながりをあらためて深く認識しました。私も引揚げ者の1人です。台湾でしたが、現地の人達は、先輩として扱ってくれます。50周年を機に校名も「同文書院愛知大学」と改称したら如何でしょうか。たしか、紅陵大も拓殖大と改めたと思います。改称すれば同文書院の継続性は明確になると思います。現存する書院生が元氣なうちに希望します。

●東京都世田谷区 O氏(70才)

地名、諸先生、先輩のお名前を拝見し、

在学した一員とし愛着と愛惜の念が深い。

1〜4集の続集楽しみにしています。

●京都府船井郡 T氏(80才)

青春時代が非常になつかしく、上海時代がよみがえりました。東亜同文書院37期昭和16年卒業。

●広島市東区 会社員S氏(63才)

亡き父(22期)の学舎、すでに70年を経て、その足跡の一端を知りたく思い、脈々と流れる素晴らしい校風に感銘を受けている次第。小生、中国東北部(大連)出身。

●東京都世田谷区 U氏(80才)

第1集より通読しているが、何れも興味深く且つ感慨一人深いものがあつた。本シリーズにより書院と愛大の紐帯が一層鞏固になったと確信する。又愛大のアイデンティティの確立にも大いに裨益した物と思う。来春発足する中国学部設置と共に愛大の飛躍発展が大いに期待される。この様なシリーズは広く全国有名高校図書館に頒布できないものだろうか。

●富山市 自営業M氏(69才)

いろいろ興味ある事実を知り一気に読了した。

●愛知県海部郡 会社員O氏(42才)

第4集で完結とのことですが、ぜひぜひ第5集を発刊して下さい。書院と愛大との関係、当時の学生生活、まだまだ断面的にしか理解していないかもしれせん。多くのOBの証言が必要と思います。○

Bの生の声が聞きたいと思っています。

●長野県塩尻市 Y氏(58才)

内容の充実が実に良い。又読み易い。5集々と言うように続けてほしい。同文書院の寮歌集を望んでいます。今年の月日10制高校寮歌祭には必ず行く、又松本にある高校資料館に何か同文書院の資料を提示し展示してほしい。若い旧制高校ファンよりお願いです。

●愛知県豊明市 無職(82才)

小田啓二様の「私と中国―若き日の思い出」よく詳細に書いて有ると感心して読みました。同時期に戦前上海で仕事をして居ましたし、昭和21年4月に東京に引き揚げて来まして博多で千円札一枚と東京迄の汽車切符を戴き、頭の上から足の先迄DPTを吹き付けられ真つ白になり全くみじめな姿で汽車に乗り2日間東京に到着、焼野原の真ん中に家が残っていません。

●愛知県刈谷市 非常勤顧問H氏(66才)

あの激動の時代、中国を理解出来る青年を教育した学校。中国を愛していた日本の若者が学んでいた学校。そこに時代を超え、人の心の暖かさを覚えます。戦前、中国で暮らした者にとって、あの広大な土地が教えてくれたことが想い出されません。同文書院の記録を第4集で終りにしないで、集った資料、想い出の記録等を、中国に対して子供の時から熱い想いを寄

せている人々に、届けて頂きたいと思えます。よろしく御願いたします。